

再発見！ふるさとの山城 岡山県中世城館跡総合調査

攻略！おokayamaの中世城館

第六巻（備中国北部・中部編）



備中松山城を南から望む（高梁市） 写真提供：高梁市教育委員会

備中国北部・中部の中世城館に迫る！

現在の岡山県西部に当たる備中国には、北部の中国山地に源を発し瀬戸内海へと注ぐ高梁川が南北に貫流しています。その流域にあたる北部・中部は、中世から河川交通が盛んとなり、新見荘、手荘や竹荘など多くの荘園が開かれていました。

承久の乱（1221年）以降、地頭としてこれら荘園に入った赤木、伊達、秋庭氏等は、次第にその支配を強め、国衆と呼ばれる在地領主へと成長します。戦国時代に入って備中国守護である細川氏の力が衰えると、所領の拡大をねらって、国衆同士の争いが起こるようになったのです。戦国時代の前半には出雲国の尼子氏の支援を得た庄氏が、後に安芸国の毛利氏の援助を得た三村氏が備中国を制覇します。しかし、「備中兵乱」で三村氏が滅んだ後は、清水氏や中島氏など主立った国衆は毛利氏に仕えます。その後、毛利氏は織田氏と結んだ備前国の宇喜多氏と争い、天正10（1582）年の備中高松城の戦いを経て、備中松山城と高梁川以西の支配権を得ることになります。備中国北部・中部には、こうした争乱を今に伝える多くの城が残っています。

本パンフレットでは、岡山県古代吉備文化財センターが平成25年から7年計画で実施している中世城館跡総合調査の成果から、これら備中国北部・中部の城館について紹介します。

備中国北部・中部の中世城館

備中松山城は備中国北部・中部では最大の山城です。この城を構成する城郭群のうち最も北に位置する大松山城は、有漢郷の地頭である秋庭氏により鎌倉時代後半に築城されたとの伝承が伝わります。戦国時代に入ると備中松山城には、庄氏や三村氏といった有力国衆が入城し、城域が拡大します。毛利氏と三村氏が争った「備中兵乱」に際しては備中松山城の他にも鶴首城、国吉城や樅城などで戦いのあった記録が残ります。天正10（1582）年の備中高松城の戦いを経て、備中国は高梁川を挟んで東は宇喜多領、西は毛利領に分けられますが、備中松山城は引き続き毛利領として残されました。



【備中国】北部・中部 中世城館年表

時代	西暦	元号（南朝）	主なできごと
南北朝時代	1336	建武3 （延元元）	後醍醐天皇（南朝）方の大井田氏経が福山城（総社市）に籠城、足利尊氏・直義兄弟と戦う。
	1352	観応3 （正平7）	北朝に与した秋庭重明が備中国守護に任ぜられる。以後、文和4（1355）まで秋庭氏一族が守護職を務める。
	1362	貞治元 （正平17）	南朝方の山名時氏が備中国へ乱入すると秋庭重明は南朝方に寝返り、備中国守護であった高師秀を追放して備中松山城（高梁市）に入る。
室町時代	1393	明德4	細川満之が備中国守護を任ぜられる。以後、細川氏が守護職を継承する。
	1515	永正12	守護（細川）方の多治部氏が新見荘に乱入し、新見・伊達氏と交戦する。
	1533	天文2	庄為資が、秋庭氏の後に備中松山城主となった上野氏を討って入城する。
	1539	天文8	尼子詮久が備中松山城を攻撃し、国内が争乱状態となる。
	1552	天文21	尼子晴久が備中国他6か国の守護職に任ぜられる。
	1561	永禄4	三村家親が毛利氏支援の下、庄高資に替わって備中松山城に入る。
	1562	永禄5	毛利隆元が備中・備後両国の守護職に任ぜられる。
	1566	永禄9	宇喜多直家が美作国久米郡興禅寺で三村家親を暗殺する。
	戦国時代	1574	天正2
1575		天正3	樫城（新見市）・備中松山城が落城する。三村元親は自害し、三村氏が滅亡する。
1579		天正7	9月、宇喜多直家が織田信長と結んで毛利氏と敵対し、備中国へ兵を進める。
			10月、反毛利方と宇喜多方の兵が四ツ畝城（高梁市・真庭市）に籠城する。 毛利輝元、吉川元春が出陣し、四ツ畝城を攻略する。
1580		天正8	正月までに四ツ畝城が落城する。毛利氏は新たに飯ノ山城（高梁市・吉備中央町）を築城する。
1582		天正10	4月、羽柴秀吉が冠山城（岡山市）を攻撃し、落城させる。宮路山城（岡山市）へも攻撃を開始する。 冠山城落城に及び、毛利輝元が備中松山城の守りを固めるよう在番の天野氏に命じる。
			5月、羽柴・宇喜多の軍勢が清水宗治の守る備中高松城（岡山市）を包囲、水攻めにする。
	6月、本能寺の変の報を受け、秀吉は毛利氏と講和する。城主の清水宗治が自害する。		
1585	天正13	春、中国国分が成立する。備中国の西半分（高梁川以西）と備中松山城は毛利氏が領有する。	
1600	慶長5	9月、関ヶ原の戦いが起こる。毛利氏に替わり、小堀政次が備中国奉行として派遣される。	
江戸時代	1606	慶長11	備中国奉行の小堀政一が備中松山城の改修を始める。
	1683	天和3	備中松山藩主の水谷勝宗が備中松山城の改修を完成させる。

備中最大の激震！「備中兵乱」

備中国の有力国衆であった三村氏にとって、備前国の宇喜多氏は、永禄9（1566）年に当主家親を暗殺され、翌年の明禅寺合戦で敗北を喫した仇敵でした。勢いを取り戻して備中国をほぼ手中に収めた三村氏は、長らく同盟関係にあった毛利氏が遺恨相手の宇喜多氏と手を結んだことから、毛利氏に叛いて争いとなります。この争乱はいわゆる「備中兵乱」と呼ばれ、近世地誌類や軍記物に描かれていますが、当時の書状を元に経過を追ってみます。

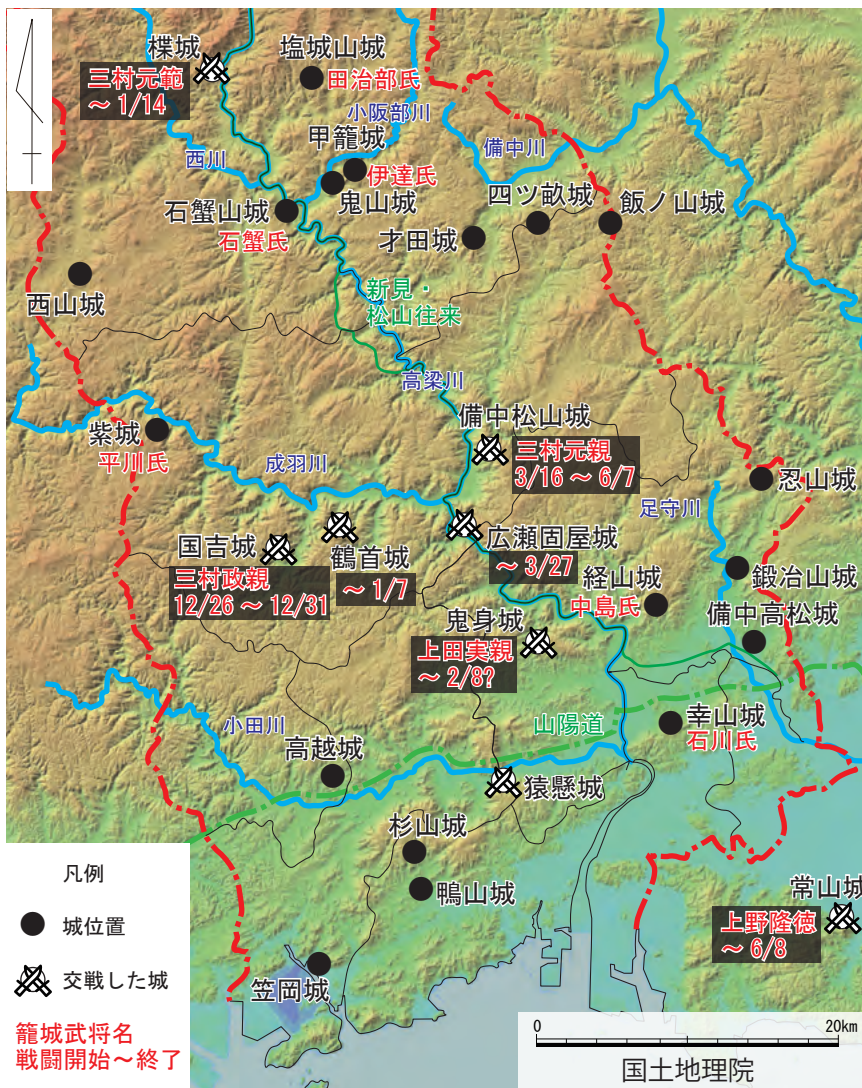
天正2（1574）年閏11月14日の毛利輝元書状には猿掛城を早く攻略したいとの文言が見られ、この頃には三村氏の諸城に対し毛利方が軍勢を送り込んでいるようです。

毛利方で先陣を切ったのは小早川隆景で、国吉城を12月26日から5日ほどで攻め落とし、300人以上の首をはねてそのリストを輝元の元へ送っています。続いて翌正月7日には鶴首城を開城させ、さらに三村元範が籠る樫城を攻めました。正月11日には城を落ち延びた元範が多（田）治部氏により討ち取られています。

鬼身城（総社市山田）では、毛利方の穂田元清が1月24日頃から三村方の上田実親を攻め、2月8日頃に勝利しました。

備中松山城では、籠城する三村元親の書状に3月16日頃から毛利方の陣が作られていると記載されています。4月22日には、毛利氏が伊達氏（甲籠城主）と石蟹氏（石蟹山城主）に備中松山城近くの2つの村などで麦雑穀（麦などの作物を焼き払うこと）を行うよう命じています。その後、備中松山城では5月後半に調略が行われたため小松山の本城のみが残り、6月初めには落城したようです。

常山城（玉野市宇藤木ほか）では小早川隆景が三村方の上野隆徳を攻めます。隆徳は天正3年2月半ばには阿波・讃岐勢の加勢を得て籠城していましたが、6月8日に陥落しました。この戦いが「備中兵乱」の終戦となりました。



備中兵乱関連城館位置図（1/500,000）



国吉城遠景



常山城遠景

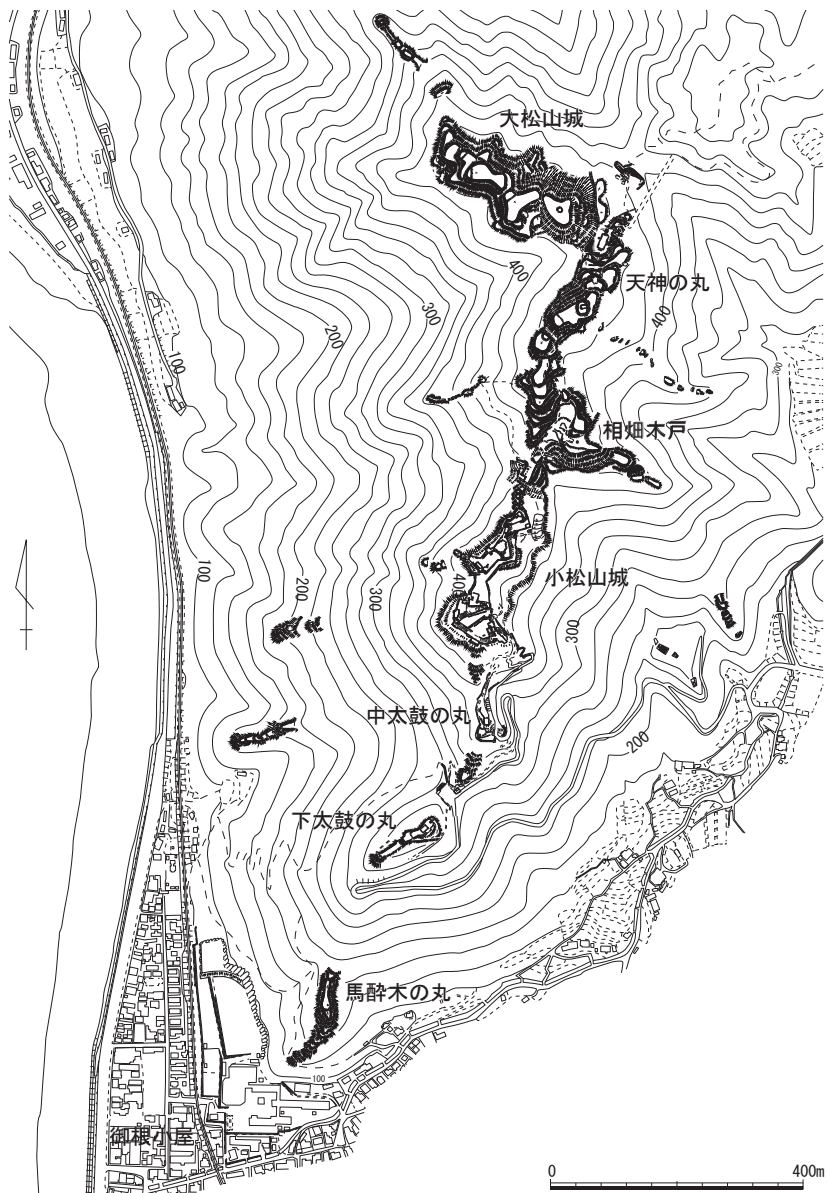
①備中松山城跡

【国史跡】

【高梁市内山下】

高梁市街の北、標高440mを測る臥牛山頂から山麓にかけて、全長約1,800mにわたり築かれた巨大な城です。山上には北から大松山城、天神の丸、相畑木戸、小松山城、中・下太鼓の丸と呼ばれる曲輪群が累々と築かれています。さらに山麓にも馬酔木の丸と呼ばれる出丸と、江戸時代に備中松山藩の政庁が置かれた御根小屋があります。

秋庭氏が鎌倉時代に大松山に城を築いたのがその始まりとされます。戦国時代には庄氏、三村氏の本城となり、全山を連郭式の山城としたと見られます。「備中兵乱」の後には毛利氏が城に入ります。関ヶ原の戦いを経て、小堀氏、池田氏、水谷氏等が代々城主となります。現在小松山城に残る天守や土塀（いずれも重要文化財）などは、水谷氏により改修されたものです。



小松山城の本丸

縄張り 1/12,000

②鶴首城跡

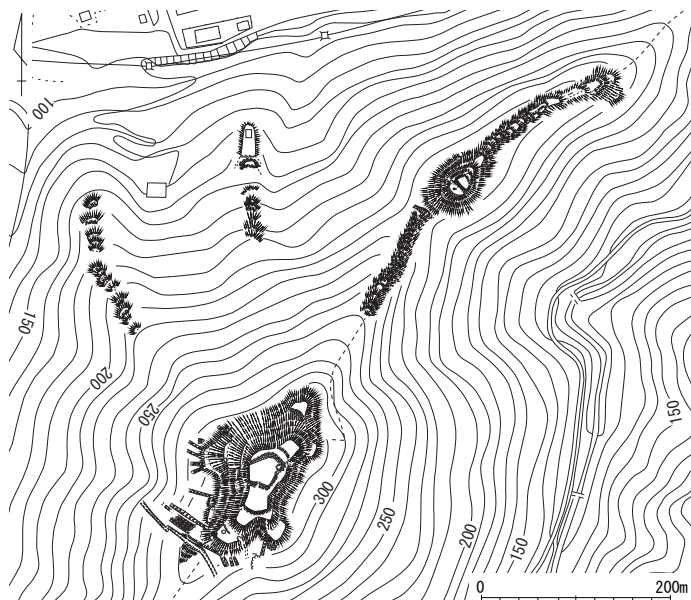
【高梁市成羽町下原】

成羽川を北に望む、標高320mの山頂に築かれた城です。最高所にある主郭は石積みにより区画されます。その周囲には畝状縦堀群や多条の堀切を配して、強力な防御線を形成しています。

天文2 (1533) 年に備中国星田荘の国衆、三村家親が入城します。家親は安芸国の毛利氏援助の下、この城を拠点に備中国制覇を成し遂げました。

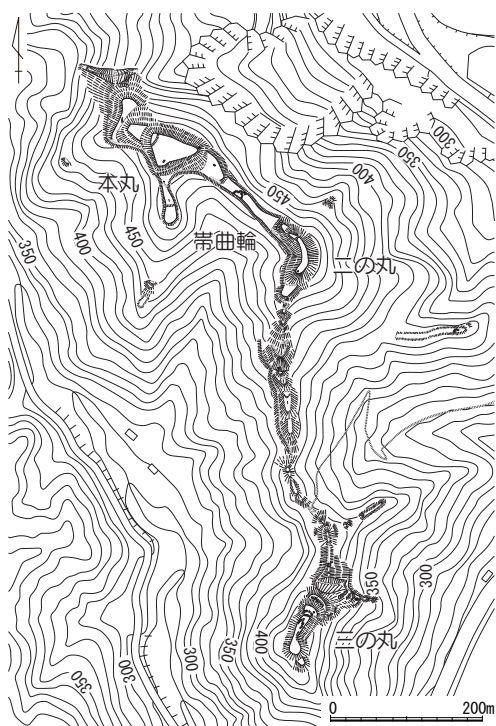


遠景



縄張り 1/8,000

■新見荘北部の守りを固める大城塞



縄張り (1/10,000)

ゆずりは
③櫓城跡

【市史跡】
【新見市上市】

中世に新見荘が開かれていた新見市街地から、高梁川沿いに北へ遡ること約4kmの山頂にある山城です。その全長は700mを越えます。北から本丸、帯曲輪、二の丸、そして城域最南端部に三の丸と呼ばれる曲輪があります。本丸の全長は60mを超えます。曲輪を画する切岸は急峻で、堀切も最大で深さ10mを測ります。また、部分的に石積みが築かれています。



曲輪 (二の丸)

南北朝時代に新見荘の地頭である新見氏により築城されたと伝わりますが、現在見られる遺構の大半は戦国時代の特徴を示していると思われま。す。「備中兵乱」に際しては三村氏一族の元範が籠城したことが伝わっています。落城後、城は吉川元春に与えられ、在番が置かれました。

■有力国衆田(多)治部氏の城と館

しおぎやま たじべしやかた
④塩城山城跡・田治部氏館跡

【市史跡】
【新見市上熊谷】



遠景



田治部氏館跡で見つかった建物群

籠城するための山城とが近接しています。そのため、両者の一体的な関係を知る上で、貴重です。

新見市域から同大佐を経て、美作国境へ至る間道沿いにあります。新見荘について記した『東寺百谷文書』(世界記憶遺産)に登場する、田治部氏の居城と、その館跡と推定されています。田治部氏は室町幕府奉公衆(将軍の直臣)を務めた有力国衆です。館跡の一部で発掘調査が実施されており、16世紀代の建物群が見つっています。平時の住まいである館と、戦時に

■高梁川を沿いに築かれた石蟹氏の居城

いしがやま
⑤石蟹山城跡

【新見市石蟹・長屋】



遠景

新見市石蟹の高梁川南岸に築かれた、全長270mを測る連郭式山城です。長さ30mを超える大型の曲輪が特徴的です。城主である石蟹氏は石蟹郷の在地領主で、三村氏の一族であったともされます。

■「備中兵乱」における毛利方の陣と伝わる

てらやま
⑥寺山城跡

【市史跡】
【高梁市川面町】



堀切

高梁市川面にある山城です。その全長は600mを超え、備中国では屈指の規模です。曲輪を画する堀切は深さ最大10mを超えます。「備中兵乱」に際して、毛利方の小早川隆景が陣を敷いたとされます。

■「備中兵乱」激戦の舞台

くによし
⑦国吉城跡

市史跡

【高梁市川上町七地】

地頭集落を見下ろす山の先端部にあります。200mにわたって曲輪を連ねる連郭式山城です。「備中兵乱」に際して三村方の兵が籠城し、毛利方との間で激しい戦いが繰り広げられました。



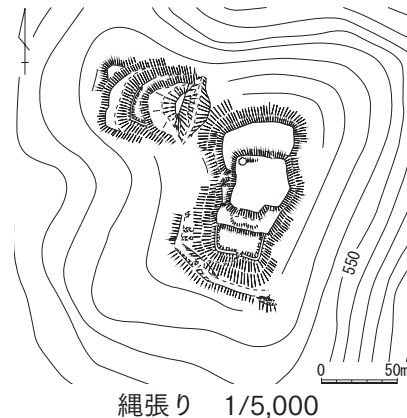
曲輪

■名門平川氏の詰城

むらさき
⑧紫城跡

【高梁市備中町平川】

成羽川上流域、備後国境近くの山頂にあります。主郭を最高所に配し、虎口も見られます。その堅固な縄張りは近江源氏の名門、平川氏の詰城にふさわしいものです。



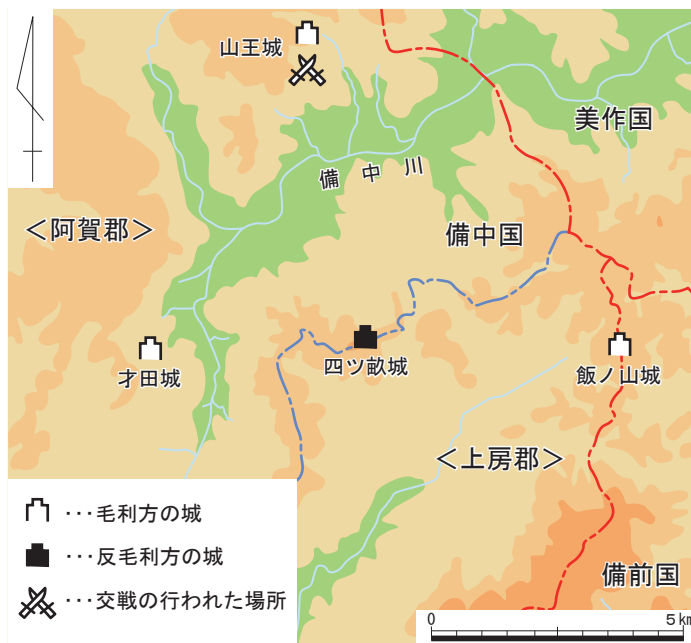
縄張り 1/5,000

■毛利氏と宇喜多氏の戦い

よつうね
四ツ畝城をめぐる戦い

天正7（1579）年9月。それまで毛利氏と同盟関係にあった宇喜多直家が織田方と結んで離反します。毛利方は各地の国衆に命じて防戦に努めます。10月、反毛利方と宇喜多方の兵が備前・美作国境に近い四ツ畝城に籠城します。毛利方は才田城に在番を置き、守りを固めます。この時、毛利輝元自ら出陣した記録が残ります。そして翌8年正月までに四ツ畝城は落城します。毛利方は四ツ畝城に在番を置き、城の東に飯ノ山城を築城し、宇喜多方からの攻撃に備えます。

この戦いは、以後、備中高松城の戦いまで続く毛利・宇喜多間の戦いの緒戦となったのです。

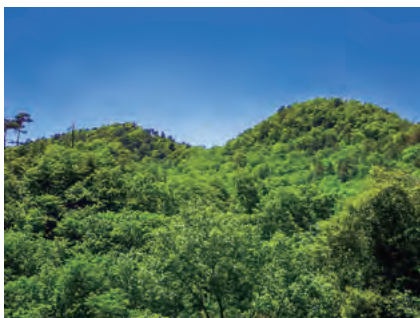


■反毛利方の拠点

よつうね
⑨四ツ畝城跡

【真庭市上水田・高梁市有漢町上有漢】

旧阿賀郡と上房郡の郡境に築かれた城です。北は旧北房町域を広く見渡し、東は備中・備前国境をも視界に収めることができます。二つの尾根上に小規模な曲輪が階段状に配される単純な縄張りです。城域の随所に土塁が残されています。



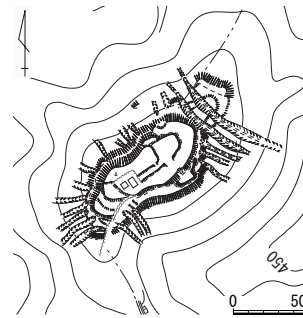
遠景

■毛利方が築いた要害

いいのやま
⑩飯ノ山城跡

【高梁市有漢町上有漢・加賀郡吉備中央町福沢】

備中・備前国境の山頂にあります。全長40mを測る主郭を中心にして、周囲を取り巻くように腰曲輪が配されます。さらに、その外周には15本を超える畝状縦堀群が掘削されます。また、城の後背は多条の堀切により尾根筋を断ち切っています。その守りは極めて固く、要害と呼ぶにふさわしい城です。



縄張り 1/5,000

⑪土井城跡

【新見市哲西町矢田】

高梁川の支流である神代川に突き出た位置にある城です。発掘調査によって曲輪や建物が見つかっています。備前焼や亀山焼、土師器などの年代観から、南北朝～室町時代に遡る城と考えられ、初期の中世山城の構造を知ることができる好例と言えます。



土井城跡の建物

⑫中田山城跡

【新見市神郷下神代】

神代川の北から延びる尾根筋にある城です。主郭で発掘調査が行われており、縁の付いた建物のほか、柱列、堀切や切岸などの遺構が検出されています。出土遺物から、室町時代の長い期間にわたって使われていたことがわかっています。近世地誌には、備中北部の有力国衆である榎崎氏の城であったと記されています。



中田山城跡の切岸

⑬岸本城跡

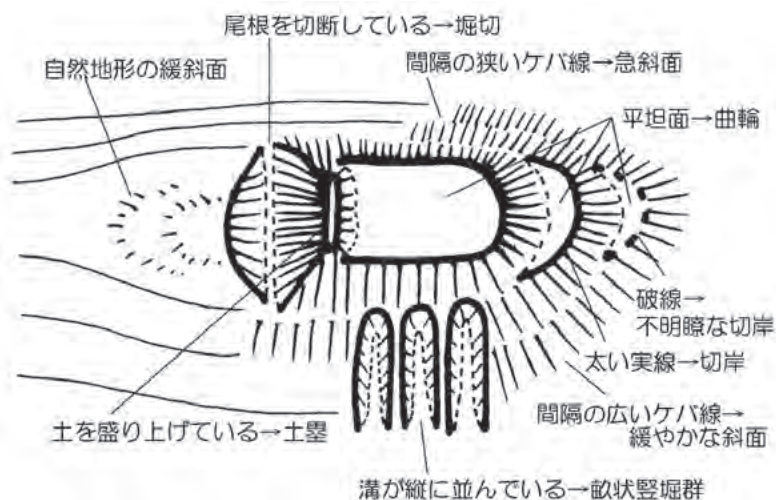
【新見市哲西町大竹】

備後国境の山頂にある城です。全長80mほどの小さな城で、主郭の規模も最大で25mを測るにすぎませんが、その周囲は急峻な切岸で囲まれていたことが発掘調査により判明しています。また、主郭を取り巻くように帯曲輪が配され、その縁辺には土塁が築かれていました。出土遺物から室町時代の城とされます。



岸本城跡の曲輪

山城の縄張り図では、ケバ線で山の斜面を表現します。ケバ線の元が斜面の上方で、先が下方になります。ケバ線の向きはその地点の傾斜方向を示し、密度が濃いと急斜面で、薄いと比較的緩やかな斜面です。



【縄張り(なわばり)】

城の基本設計で、曲輪、堀、土塁、出入口(虎口)などの遺構の配置や組み合わせのこと。

【曲輪・郭(くるわ)】

尾根や斜面を造成してつくった平坦地。中心となるものを主郭又は本曲輪(後の本丸)という。このほか、主郭を取り巻く細長い帯曲輪、主郭から下った場所に設けられた腰曲輪がある。

【切岸(きりぎし)】

敵の侵入をはばむため、曲輪周囲を人工的に切り崩した急崖。

【堀(ほり)】

城の防御施設で、尾根を断ち切るように掘られた堀切、山の斜面に沿って掘られた縦堀、縦堀を連続して並べた畝状縦堀群、曲輪の周りを取り巻くように掘られた横堀がある。

【土塁(どるい)】

曲輪や堀の縁辺に土を盛ってつくった防御用の高まり。

【出入口(でいりぐち)・虎口(こぐち)】

城や曲輪の出入口。直線的、のぼり坂、屈曲した通路や門の前後の広場を組み合わせたものがある。

【発行日】 令和2年2月

【発行・編集】 岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山県岡山市北区西花尻1325-3

電話 086-293-3211 FAX086-293-0142

<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai>

※ホームページで岡山県中世城館跡総合調査の様子を公開中!

※注意事項

- ・城館跡の多くは個人の所有地です。場所や季節によっては立入りが制限されているところがあります。見学に際しては、立入りに十分注意し、マナーを守って行動しましょう。
- ・見学するときは、野外活動に適した服装を心がけ、十分に注意しましょう。
- ・クマ、イノシシ、ムムシ、害のある虫や植物などに気を付けましょう。
- ・自分の位置を確認するため、方位磁石、地図やGPSなどの活用をおすすめします。
- ・城館跡は貴重な文化財ですから、大切にしましょう。